

科 目 名	家庭基礎
単 元 名	C 持続可能な消費生活・環境
内容のまとめ	(1)生活における経済の計画

1 単元の目標

- (1) 自立した生活を営むために必要な家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定の重要性、消費者保護の仕組みなどについて理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。
- (2) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者としての生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを理論的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家族、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理に必要な知識を身に付けている。	生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費者について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

3 指導と評価の計画（7時間）

- | | |
|--------------------|------|
| （１）購入と契約とよりよい意思決定 | 2 時間 |
| （２）消費行動に関わる問題とその対応 | 1 時間 |
| （３）安定した経済生活 | 1 時間 |
| （４）家計資産のマネジメント | 2 時間 |
| （５）持続可能な社会の実現 | 1 時間 |

時間	【ねらい】・学習活動	重点	記録	備考（・は評価規準（ ）は評価方法）
1	【単元を貫く課題】 将来を見通し、自己実現を果たすための適切な金銭管理能力を身に付ける。			
	契約ってなに？ 【ねらい】 契約の仕組みを理解し、多様化する販売方法や支払い方法を知り、責任ある消費行動が取れるようにする。			
1	・ライフプランを振り返り、将来の目標などを確認する。 ・契約の仕組みを理解する。 ・意思決定のプロセスを整理する。 ・情報と条件から意思決定に基づいた消費行動として「自家用車の購入」について考える。	思 ① 主 ①	○	・情報を活用し、適切な意思決定に基づいて消費行動ができるように考え、表現することができる。 ・自家用車の購入について、学んだことを基にして考えようとしている。 （ワークシート・発表・行動観察）
2	販売、購入、支払い方法ってどうなっているの？ 【ねらい】 様々な販売、購入、支払いの仕組みを理解することができる。			
	・多様な販売方法や支払い方法を理解する。 ・消費者信用の仕組みを整理する。 ・多様化によるメリットやデメリットを整理し、消費行動を振り返る。	知 ①	○	・商品の購入方法や支払い方法の特徴、安全性の管理について理解している。 （定期考査・ワークシート）
3	どんなトラブルがあるの？巻き込まれないためにはどうしたらいいの？ 【ねらい】 消費行動に関わる問題を理解し、その対応について考えることができる			
	・現在の消費者問題の特徴を整理する。 ・消費者支援の取り組みや法律を理解する。 ・若者や高齢者を狙った消費トラブルについて調べ、巻き込まれた理由、その対応方法、消費者支援について考える。	知 ② 思 ②	○	・どのような消費者問題があるか理解している。 ・消費者問題に巻き込まれる理由を考え、どのような予防策や解決策を講じると良いか判断している。 （定期考査・ワークシート・レポート）

4	生きるために必要なお金 給料の使い道どうする？ 【ねらい】家計の構造と収支バランスなど家計管理について理解することができる。			
	・家計の構造を理解する。 ・給与明細を読み取り収支の内訳を整理する。 ・給与の使い道をシミュレーションして家計管理計画を立案する。 ・お金の仕分けを通して、生活における経済の計画を理解する。	知 ③ 主 ②	○ ○	・収入や支出の内訳や家計管理の仕組みについて理解している。 ・経済的自立を意識して、生活に必要なお金について学び、実生活に生かそうとしている。 (定期考査・ワークシート・レポート)
5 ・ 6	自己実現のためにどうやってお金を管理したらいいの？ 【ねらい】生涯を視野に入れ、国の制度や金融商品の仕組みを理解し、お金を適切に管理する方法を考えることができる。			
	・長期的に資金を準備する必要がある支出や予測できないリスクがあることをライフプランと関連付けながら理解する。 ・金融商品について理解する。 ・金融商品の特色や問題点を整理し、ゲームを通して、生涯のお金の管理に適切な方法を考える。	知 ④ 主 ③	○ ○	・生涯の三大支出やリスクについて理解している。 ・金融商品のしくみや特徴、問題点を理解している。 ・金融商品について理解し知識を生かして、生涯のお金の管理に適切な方法を考えようとしている。 (外部講師による特別講義、ワークシート、発表、行動観察)
7	持続可能な社会のために私たちにできることはなに？ 【ねらい】消費行動の背景にある事象を様々な視点で捉え、消費者としてどのように行動するか考えることができる。			
	・持続可能な社会と生き方について整理する。 ・消費行動の背景にある事象を理解する。 ・消費者市民社会の一員であることを自覚してどのようなことができるのか自分の行動を考える。 ・課題発表とまとめ。	思 ③ 主 ④	○ ○	・持続可能な社会の実現に向けて、題を設定し、様々な視点で自分ができることを考えている。 ・持続可能な社会の実現が自分自身の生活と深く関わっていることを意識して考えようとしている。 (ワークシート、ホームプロジェクト)

4 学習活動と評価方法（学習指導案）

科目名	家庭基礎		指導クラス	1年1組（普通科25名）	
単元名	第9章 経済生活を営む 4 生涯の経済生活を見通す		使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）	
本時の主題	自己実現のためにどうやってお金を管理したらいいのか（6時間目／7時間）				
指導観	成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ18歳となる高校3年生の在学中に多くの生徒が成年となり親の同意がなくとも様々な契約ができるようになった。その契約には、ローンを組むことや株式や投資信託を購入するための証券口座を開くことも含まれる。自分の意思で行えることが増える一方で、マルチ商法（ネットワークビジネス）や投資詐欺など知識がないことで金融トラブルに巻き込まれてしまうこともある。「簡単に儲かる」といった誘い文句に騙されないためにも、金融商品や金融サービス、ローンなど、それぞれの仕組みと特徴、リスクなど金融知識を持つことで、自分を守ることにつながることを理解させたい。 予測不能な社会情勢の中を生きていくためには、人の一生に関わる金融リテラシーを身に付け、ライフプランにおける持続可能な金銭の管理力を身に付けることは重要である。自己実現のために一人ひとりのライフプランと金銭管理方法を関連付けて考えさせたい。				
本時の目標	金融商品の特性や問題点を理解し、生涯のお金を適切に管理する方法を考えよう。				
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価場面・評価方法	指導上の留意点	
導入 5分	本時の目標を確認	本時の目標を理解する。 なぜ学ぶのかを確認する。		本時の目標を確認させる。 タブレットを準備させる。	
展開 37分	金融商品の 特徴 （グループ活動）	1. 金に関するクイズ（kahoot!） 外部講師による特別講義で学んだ内容や金融商品の特性を整理する。	○評価規準 【主体的に学習に取り組む態度】 〈評価方法〉 ワークシート 記録に残す評価 生涯のお金の管理の方法を適切に考えようとしている。 〈Aの例〉 生涯のお金を適切に管理する方法について、資産形成の特性を理解したうえで、目的に応じた選択や活用について考えようとしている。	タブレットでクイズに答え、前時の内容を振り返らせる。	
	資産形成 ゲーム （グループ活動）	2. 資産形成ゲームについて知る。 あなたの家族は、家計に100万円の余裕ができました。10年後の子どもの教育費を準備するために資産形成をすることにしました。どの商品を選択しますか？ ゲームの方法を知り、グループで話し合い、金融商品の選択と金額を決める。		〈Bを実現するための指導〉 お金を管理する方法にはどのようなものがあるか、またどのような特徴があったか気付かせる。	
	自分の将来の 資産形成について考える （個人活動）	3. 社会情勢カードを示し、それぞれの投資額を計算する。 - 社会情勢によって、金額も変動することを知る。 4. 投資ゲームの結果から、資産形成について学んだことや将来どのようにしてお金を管理していきたいのかを考える。 - 自己実現のために目的別にお金を管理する方法について解説する。		〈Cへの手だて〉 ゲームの中で興味がある方法はなかったか考えさせる。	
まとめ 8分	本時のまとめ	- 適切にお金を管理するために、気付いたこと、考えた事を振り返りシートに記入する。 - 自己評価をプリントに記入する。	指導に生かす評価 本時の振り返りをまとめる場面	本時の振り返りをさせる。	

5 成果と課題

	学習活動における具体の評価基準 (B)	「十分満足できる」と判断される状況 (A)	「努力を要する」と判断される状況 (C)
評価	評価基準「主体的態度」 ・金融商品について理解し知識を生かして、適切なお金の管理方法を考えようとしている。(34%)	・生涯のお金を適切に管理する方法について、資産形成の特徴を理解したうえで、目的に応じた選択や活用について考えようとしている。(66%)	・生涯のお金の管理方法を考えようとしていない。(0%)
生徒の状況	・金銭管理のポイントについてまとめている。 ・ゲームの感想になっている。	・自己実現について金銭管理のポイントや学んだことを踏まえて今後の資産形成について具体的に記入している。	・記述なし
記述例	・低リスク、ハイリターンの金融商品はないけど、将来の自分のために色々な知識を付けていくことが大切だと思った。	・将来の夢を実現するためには貯金がすべてじゃないと知れた。人生にはハプニングがあるからなんの為に資産形成するのか具体的な目的を決めて、資産形成をしていきたい。	

成果

- ・資産形成について、専門家による講義を効果的に取り入れた授業を展開することができ、貯金だけじゃない様々な選択肢に気付くことができる授業になった。
- ・投資ゲームを取り入れたことで、楽しみながらお金と生活の関連について考えさせることができ、将来のライフプランとお金について自分事として考えさせることができた。
- ・ICT (Kahoot、Excel) を授業に活用することができた。

課題

- ・資産形成について、家庭科でどこまでを扱えばよいのかが難しいと感じた。専門性が高い分野であるために内容を掘り下げて学べば教えた内容が増えてくるため、1時間の授業の中の焦点化が難しかった。
- ・単元で扱う内容が多岐に渡るが、時間に限りがあるため、内容の精選が必要だと感じた。
- ・資産形成について自身の勉強不足の所が多々あると感じた。